

2020年度
入学試験問題
(A日程午前)

国語

注意

- 1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 「開始」の合図で、1/5から5/5まで問題が印刷されていることを確かめなさい。
- 3 解答用紙に受験番号を書きなさい。名前を書いてはいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙の指定された解答らん^{らん}に書きなさい。問題用紙に書いても得点になりません。
- 5 解答用紙はこの表紙の裏にあります。
- 6 「終了」^{しゅうりょう}の合図で、すぐに筆記用具を置きなさい。
- 7 問題および解答用紙は机の上に置き、持ち帰ってはいけません。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この子は、どういものか乗り物に弱くて、家では一番のはしやぎ屋なのに、なにか乗り物に乗るとたちまち、青菜に塩①になってしまふ。それでも、近頃ちかごろは電車やバスやタクシーには馴なれてきたが、飛行機や特急列車は依然いぜんとしていけない。上と下はすこぶる元気で、食欲も旺盛おうせいなのに、この子一人はぐったりとして、なにか食べるとすぐ吐はいてしまふ。とりわけ、特急でも半日がかりの帰郷の旅では、途中とちゆうから、まるで病人を一人道連れみちづれにしているようなあんばいになる。いちどなどは、汽車から降りても吐はき気が止まらなくて、休みいっぱい寝て過おごしたこともあった。医者に診て貰もらうと、脱水症だっすいしょう状じょうを起おこしているといわれて、太いブドウ糖を注射された。

こんなことでは、せつかくの帰郷もお互たがいに気の重い旅になってしまふ。なんとか次女を乗り物酔よいから救う道はないものかと、絶えず心掛がけているのだが、いまだに有効な方法がみつからない。酔い止めの薬も、次女には一向に効き目がない。汽車に乗り込む時間や乗り込む前の食事しょくじも、いろいろに工夫くわうしてみたが、よい効果は現れなかった。どこかで、スルメをちいさく刻んだのをチューインガムのように絶えず嚙かんでいると酔わないと聞いたので、それを袋に入れて持たせてみたが、やはり効き目がなかった。

昔からあるおまじないのたぐい——たとえば梅干しを臍へそに当てて置く、などということも、暗示あんしにかけるつもりで試みてみたが、これも無駄むだに終わってしまった。座席を二人分占領せんりやうしてぐったり横たわっている次女が、服の下から手を入れて腹のあたりをもぞもぞさせていたかと思おもうと、

「これ、返す。でも、気にしないで。」

と、まだ絆創膏ばんそうこうが十文字についている梅干しを手のひらにのせて出したときは、私はすっかりしよげてしまった。

こんなことを何度も繰り返しているうちに、次女自身も我ながら情けなくて、ひそかに原因を探っていたのだろう、遂ついに自分で、乗り物に酔うのはその乗り物の窓が密閉みつへいされているからだということを発見した。次女の乗り物酔いの妙薬みょうやくは、次女の言葉によれば『酸素』であり、『風』なのである。次女の旅には、『酸素』と『風』が必要なのだ。

実際、次女はそのことを発見してから、電車やバスやタクシーには酔わなくなった。どれも窓が開くからである。ところが、飛行機や特急列車は、そうはいかない。それで、次女はいまでも、帰郷の旅が近づくとたびに、

「特急はどうして窓が開かないの？」

と恨うらめしそうに訴うたえたり、

「ああ、また盛岡まで六時間の辛抱しんぼうか。」

などと、うんざりしたりすることになる。

盛岡まで、というのは、私たちの町には特急は停車しないので、盛岡で普通列車ふつうれうに乗り換えなければならぬからである。盛岡で普通列車に乗り換えると、次女は早速窓際に陣取じんしんつて窓を開け、存分に『酸素』と『風』を補給する。次女は、みるみる蘇よみがえる。頬ほおには④が、目には⑤が戻もどってくる。

「ああ、おながが空すいちやった。」

そういつて話す声にも、⑥が出てくる。

次女は、ときどき窓から吹き込んでくる風に向かつて鼻を突き出し、目を細くして、じつとしている。私は、そのときくらい次女が気持ちよさそうな顔をするのを見たことがない。まるで、好きな人の膝ひざの上に背中をまるくして、ごろごろと喉のどを鳴らしている⑦顔をしている。

きのうの夕方、私は、無精ぶせうしていた頭があまりにもひどくなったので、昔風に七三に分けた頭が好きなおふくろをびつくりさせないよう

に、次女を連れていつもの理髪店りはつてんへ出掛けたが、そのとき、家の近くの川べりの道でチリ紙交換ちりしこうかんの車に出会った。

こんな商売なまはにも縄張りなまはというものがあるのかどうか、毎日この川べりの道を流していくのはおなじ車なのかどうか、私は家にも窓から覗のぞいてみたことがないからわからないが、チリ紙交換でございと触れてくる声や節廻ふしまわしを聞いていると、同業入り混じって三人や四人ではないことがわかる。

ぼそぼそ声の囁ささやき型がた。浪曲調なみのりきやう。「区役所くわくやくじよからのお知らせ」風——さまざまだが、私と次女が会った車は、声といい節廻しといい、岩手の町の駅のアナウンスとそっくりであった。それで私は、その車とすれ違ちがつてから次女にそういつてみた。

「……そういえば、似てるね。」

と、次女はちよつと耳を澄すましてからいつた。

⑧それきり、次女は黙だまって歩いたが、やがて、ねえ、お父さん、といった。

「日本には、窓が開く汽車ってないの？」

「それはあるよ。」と私は答えた。「あるけど、そんな汽車は各駅停車ののろくさい汽車だよ。」

「のろくさくても、上野からその汽車に乗れば、お祖母おばあちゃんのとこまでゆける？」

「ゆけないね、途中で何度か乗り継つぎをしないと。お父さんが学生のころは青森行きの普通列車が何本もあったんだけど、いまは一本もなくなつた。でもね、各駅停車を乗り継いでいくと、時間ばかりじゃなくお金もかかるよ。途中で一と晩か二晩、旅館りやうかんに泊とまらないといけないから。それに、食事だつてそれだけ余計あまにしなくちゃならないし。」

次女はちよつと黙だまっていたが、

「私のお小遣こづかい、来年の春までは貰もらわないってことにしても、足りないかなあ。」

と、独り言ひとりごのようにそういつた。

⑨そのとき、私は正直まこといつて、ちよつと胸を突つかれたような思いがした。次女の悩みがそれほど深刻なものになつていとは思おもいもしなかつたからである。次女の小遣こづかいは、月々わずか三百円だが、それをそっくり一年分諦あきらめてしまふというのは、子供にとっては容易やすならぬことではないだろうか。

ゆうべ、私は、仕事が手につかぬままに、次女が憧あこがれている『窓の開く汽車の旅』の思い出に耽ふけつた。私は、受験生時代から二度目の学生生活の前半ぜんはんごろまで、窓の開く普通列車にしか乗つたことがなかった。妻を初めて郷里へ連れ帰つたときも、それから何年か後に都落ちをしたときも、夜行の普通列車であった。その翌年の春、再起を志して単身上京したときも、やはり夜行の普通列車であった。

真夜中に、どこかのちいさな駅で、ごとりと停まる。浅い眠りから醒めて窓を上げてみると、郷里ではまだ遠かった春が微風に乘って流れ込んでくることがあった。誰もいないホームの柵の外から枝をひろげている桜が満開で、夜明けにはまだ大分間があるというのに、勿体ないほど花を散らせているのをみたこともある。

また、いつかの春の夜、どこかの駅から乗り込んできて私の前の座席に着いた中年の女の人が、窓を上げると、外のホームには、下は五つぐらいの男の子から上は小学校六年生ぐらいの女の子まで、おなじ兄弟姉妹らしい五、六人の子供らがいる、「父ちゃんに、軀に氣をつけてってな。」「母ちゃんも風邪ひかぬよに。」などと口々にいい、母親も、「あいあい、盆には父ちゃんと帰ってくつから。みんな喧嘩しねよに留守をしてれや。」と答え、発車のベルが鳴ると、突然、茶目な男の子が指揮棒を振る真似をして、子供らは低い声で「螢の光」を合唱しはじめた。

母親はびつくりして笑いだし、つぎにはあわて気味に、「やめれ。やめれつたら。」と子供らを軽くぶつ真似をしているうちに汽車が走り出し、ホームの灯が流れ去って外が暗闇になると、母親はちいさく舌打ちして窓を閉めたが、不意に、その窓ガラスに額を強く押し当てて、すすり泣きをはじめた。

あの夜の子供らの「螢の光」と、母親の額が窓ガラスに立てたごつつという鈍い音は、まだ私の耳のなかにある。

⑩ 今年の春は、窓の開く夜行列車を乗り継いで帰ろうか？ 次女と一緒に、仔猫のような顔をして窓から春の匂いを嗅ぎながら……。
(三浦哲郎『春は夜汽車の窓から』)

*チリ紙交換……不要になった紙とトイレットペーパーを交換してくれること。

*浪曲……三味線を伴奏とする語り物。 *都落ち……都会を離れて地方に移り住むこと。

問一 〳〳線部 a・b のことばの意味として適当なものを次のア～エから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- a あんばい 「ア みじめさ イ 気配 ウ 手間 エ 具合」
- b 無精 「ア 面倒くさがつてなまけること イ 自分の好きなようにしておくこと ウ 仕方なくその状態を保つこと

エ 手を加えずありのままにしておくこと

問二 線部①「青菜に塩になってしまう」について、次の各問いに答えなさい。

- (1) これは、次女のどのような様子を表していますか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。
 - ア 顔色が青くなっている様子 イ しょんぼりとしている様子 ウ 不機嫌になっている様子
 - エ おどおどしている様子
- (2) 次の①～③の意味になるように、A 〳 C に適当な漢字一字を入れて、それぞれの慣用句を完成させなさい。

意味	慣用句
① さつぱりしていて、気持ちの良い性質。	↓ A を割ったような
② 何の根拠や関係もないこと。	↓ 根も B もない
③ よいもの二つを同時にひとりじめすること。	↓ 両手に C

問三 線部②「電車やバスやタクシーには馴れてきた」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 乗り物に乗り込む時間や、食事の取り方が工夫できるから。
- イ 日常生活で、飛行機や特急列車よりよく利用するものであるから。
- ウ 短時間しか乗らないもので、食事を取る必要がないから。
- エ 窓を開けて風と酸素を感じれば、大丈夫だと気づいたから。

問四 線部③「私はすっかりしょげてしまった」とありますが、それは何に對してですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 必ず効果があるという梅干しのおまじないを次女に試してみたが、まったく何の効き目もなかったこと。
- イ 梅干しを使ったおまじないを試みたが暗示がまったくかからず、逆に次女をあきれさせてしまったこと。
- ウ 乗り物酔いに苦しむ次女を、救ってやる方法がどうしてもみつからず、かえって次女に氣をつかせてしまったこと。
- エ 乗り物酔いのひどい次女に何をやっても効き目がなく、みんなが楽しみにしている帰郷が台無しになってしまうこと。

問五 ④ 〳 ⑥ に当てはまることばの組み合わせとして、最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 「④ 赤み ⑤ はずみ ⑥ 明るさ」 「④ 赤み ⑤ 輝き ⑥ 張り」
- ウ 「④ 輝き ⑤ 明るさ ⑥ 落ち着き」 「④ 張り ⑤ 若さ ⑥ 純粹さ」

問六 ⑦ に当てはまることばを考えて、八字以内で答えなさい。(、。 「」は字数に数えます。)

問七 線部⑧「それきり、次女は黙って歩いた」とありますが、この時の次女の気持ちを説明したものととして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア チリ紙交換の車の声からお祖母ちゃんの家を思い出し、近々、家族みんなで帰省できるといううれしさをかみしめている。
- イ チリ紙交換の車の声からお祖母ちゃんの家を思い出したが、乗り物酔いをするのもう帰省したくないと、苦々しく感じている。
- ウ チリ紙交換の車の声からお祖母ちゃんの家を思い出し、何とか乗り物酔いをせずに帰れる方法がないかと、真剣に考えている。
- エ チリ紙交換の車の声からお祖母ちゃんの家を思い出すと同時に、この車がどの地方から来たのかと不思議に思っている。

問八 線部⑨「ちよっと胸を突かれたような思いがした」とありますが、このときの「私」の気持ちを、解答らんに続くように六十字以内で考えて答えなさい。(、。 「」は字数に数えます。)

問九 ――線部⑩「母親はちいさく舌打ちして窓を閉めた」とありますが、この時の母親の気持ちとして適当でないものを次のア～オから二つ選び、記号で答えなさい。

- ア むじやきな子供たちにさびしい思いをさせてしまおうとわかっているが、何もできない自分に歯がゆさを感じる気持ち。
- イ かわいい子供たちとの別れをおしんでいたにもかかわらず、おかまいなしに速度を上げた汽車にいらだつ気持ち。
- ウ 大切な子供たちと盆まで離ればなれに暮らさなければならず、思い通りにならない今の境遇をなげかわしく思う気持ち。
- エ ホームでの合唱はずかしいのでやめさせようとしたが、子供たちが言うことを聞かず、少し腹立たしく思う気持ち。
- オ 自分を見送りに来た子供たちが思いがけず合唱を始めたため、そのむじやきさに心を強くゆさぶられる気持ち。

問十 ――線部⑪「今年の春は、窓の開く夜行列車を乗り継いで帰ろうか？」とありますが、「私」がどのように考えたのはなぜですか。本文全体をふまえて、その理由を五十字以内で説明しなさい。(、。」「は字数に数えます。)

問十一 本文の内容と表現を説明したものととして、適当なものを次のア～カから二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「私」と次女が会話を重ねるたびに、帰郷する二人の気持ちが見えていく様子が見られる。
- イ 列車の旅に関するいくつものエピソードが描かれており、すぐにでも読者を旅に向かわせる効果がある。
- ウ 父親である「私」の、娘に対する細やかな愛情が感じられ、「私」の視点からおだやかに話が進められている。
- エ ひどい乗り物酔いをするため、子どもなりになやむ次女の心情が、それぞれの場面で丁寧にあらわされている。
- オ 若かったころの旅の出来事を「私」が回想する場面では、特に春の思い出が印象的なものとして描かれている。
- カ 次女と「私」との会話が本文の中心となっており、文章のリズムが生まれ、かるやかな印象をあたえている。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

実は、地球上には数千万種といわれるさまざまな生きものが暮らしていると考えられるのですが、そのすべてが細胞でできており、その中にはDNA(ゲノム)があります。これが偶然とは考えにくいので、生物学者は、今地球上にいる生きものはみな、祖先を一つにするな

かまだと考えています。事実、たとえばバクテリアとハエと植物とヒトという、見かけも暮らし方もまったく異なる生きものがもつDNA(ゲノム)をくらべると、とてもよく似た構造とはたらきをしていることがわかりました。

あなたが今ここにいるのは、38億年前から続いてきた生きものの歴史があるからなのです。その間に、たくさん生きものたちがいつし

(中略)

あなたは今ここにいるためには、38億年という長い時間をかけて、さまざまな生きものがいつし

次に、あなたが生まれてからの時間のたいせつさを考えます。あなたの始まりは受精卵です。ここには実は、偶然がかかっています。もしあなたの両親が出会わなかったら……それより前に、おじいさんとおばあさんが出会っていなかったら……こう考えてくると、あなたという存在の誕生には、たくさん偶然がかかっていることがわかります。これも機械とちがうところですね。機械は設計図を描いて、必要な部品をつくり、それを組み立てていく。すべて計画どおりです。

前にも書いたように、あなたの出発点である受精卵の中にあるDNA(ゲノム)は世界にただ一つ、この世にこれまでになかった存在です。ところで、その受精卵があなたという存在になっていくには、ゲノムの中にある遺伝子をはたらい

朝起きて、ごはんを食べて、学校で勉強して、お友達と遊んで……わたしたちにとって、これらの活動が「生きている」ということの実感ですけれど、それができるためには、私たちの体がいともいとも全体としてのまとまりをもってはたらき続けてくればなりません。いつもは、そんなことを考えなくても、体はうまくはたらくようにできています。前にも書いたように、少々こわれても自分でおし

けれども、わたしたちが「生きている」ってどういうことなのだろうということをもっと忘れて行動し始めると、体はうまくはたらくなくなり

ここでまた機械と人間をくらべてみます。機械にはなにをするか、目的があります。自動車なら、人や物を運ぶということ、その目的を最も効率よく行える機械がよい機械です。いっぽう、わたしたち人間は、まず「自分自身が生きること」がたいせつです。もちろん、生きることの中には、人に親切にするとか、世の中の役に立つ道具を発明するとかいう、それぞれの人の生き方、別のいい方をするなら目的がありますけれど、つまり機械は、存在することそのものに意味があるのではなく、行うはたらきが重要なのですが、わたしたち人間の場合、存在することそのものにまずたいせつな意味があるのです。これはとてもたいせつなことです。よく考えてください。なにができるか

とか、なにをするかという前に、「いること」に意味があるのは生きものだけでしよう。お友だちといっしょにいるときも、それを忘れな
いでください。「いること」がたいせつなんだということを。もちろん生きていく中でなにをするかということもたいせつですが、それは
人それぞれ。まず「いること」のたいせつさが先です。

このように機械とわたしたちのちがいを具体的に知るには、なにに注目すればよいのでしょうか。わたしはそれは「時間」だと考えていま
す。機械の場合、できるだけ時間をかけずに目的を達するのが、よい機械です。現代は科学技術文明の時代ですから、どんなよい機械が
発明され、時間をかけないように、かけないようにする方向に動いています。日本各地にジェット機が飛び、1、2時間あればどこへでも
行けるようになりました。便利です。

(a)、生きものはどうでしょう。わたしたちは食事をします。自動車にガソリンを入れるのとおなじです。でも、食物はそれだけの
ものでしょうか。今日はなにを食べようか。まず、これを考えるのが楽しみです。(b)わたしは今日、お友だちが市民農園でつくった
じゃがいもで肉じゃがをつくり、家族にお友だちの話をしながらいただきました。おいしかったし、楽しかった。これにはたたくさんの時間
がかかっています。畑でのじゃがいもつくりから考えたら、大変な手間です。でもその友だちは、畑仕事をしたり、そこで収穫した野菜を
知人におすそわけすることが楽しくて、会社での仕事をする力がそこから出てくると思っています。料理や食事はどれもすべて「生きてい
る」ことにつながり、それをたいせつにすることは、わたしたちが存在することの一つの意味なのです。

楽しみながら食べれば、体が自然にしっかりとほたらいてくれますし、心も豊かになります。(c)、ここに効率よくという考え方を
入れて、畑での作業も料理も切り捨て、すべてをお金ですませるような生活をしたら、便利だけれど、そのぶん、さびしいことや失うもの
も多いのではないのでしょうか。

すでに何度もいったように、いのちや心は「これです」といつてとり出せるものではありませんが、「たしかにそれがあるなあ」「わたし
たちにとってそれはたいせつなものだなあ」と実感することはできます。その実感の一つが、日常の生活をていねいに暮らし、そこで過ぎ
ていく時間を心に止めることだと思います。

(d)、今の社会はそこに価値を認めない傾向があります。早くできることがよいという価値です。時間をかけて自分たちで食べもの
をつくるのは止めて、できあがったものを買えばいいじゃないか。お金さえあればそれはできるよ、という考え方です。日本の国はその道
を選んだので、食糧自給率が40%という低いものになり、どんな人がどんなふうにつくったのかわからない食べものを口にするこ
にりました。たしかに効率はよいかもしれませんが、でも、本当にこれでよいのでしょうか。

わたしたちが生きているということは、時間をつむぐことであるのに、毎日の暮らしの中で必要な時間をたいせつにしない社会になってきた
ために、体の中のいのちや心が悲鳴をあげているような気がしてなりません。

(中村桂子『あそぶ 12歳の生命誌 中村桂子コレクション いのち愛づる生命誌V』)

問一 ——線部①「生物学者は、今地球上にいる生きものはみな、祖先を一つにするなかと考えています」とありますが、それはなぜ
ですか。説明した次の文章の (A) (B) (C) (D) に当てはまることを本文から三字以内でそれぞれ探し、書きぬきなさい。

地球上に暮らす生きものは (A) も生態も全く異なっているのに、すべてが (B) でできているところが
共通している。さらに、(B) (C) (D) の機能や (D) (さえも、非常によく似ているから。

問二 ——線部②「38億年前から続いてきた生きものの歴史」とありますが、それはどのようなものだと述べられていますか。解答らんに
続くように、三十五字以内で考えて答えなさい。()、。」「は字数に数えます。

問三 ——線部③「受精卵があなたという存在になっていく」とありますが、この時に重要なことは何ですか。最も適当なものを次のア
エから選び、記号で答えなさい。

- ア ゲノムの中にあるそれぞれの遺伝子が、お母さんの子宮の中ではたらくということ。
- イ ゲノムの中にあるそれぞれの遺伝子が、しっかりとほたらいて体を作ること。
- ウ ゲノムの中にあるそれぞれの遺伝子が、これまでにない、世界にただ一つのものであること。
- エ ゲノムの中にあるそれぞれの遺伝子が、個々にだけではなく、まとまったはたらきをすること。

問四 ——線部④「生きているということを忘れた行動」とありますが、どのようなことを忘れた行動のことですか。それが説明されたと
ころを本文から二十五字以内で探し、解答らんに続くように書きぬきなさい。()、。」「は字数に数えます。

問五 ——線部⑤「機械とわたしたちのちがいが」とありますが、機械が「わたしたち」とちがうのはどのようなところですか。それを説明
した次の文の (A) に当てはまるように、本文から十五字以内で探し、書きぬきなさい。()、。」「は字数に数えます。

「わたしたち」とちがって、機械は (A) () がたいせつであるところ。

問六 (a) (b) (c) (d) に当てはまることを次のア、イ、エ、オ、カから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

(同じ記号は二度使えません。)

- ア 実は (a)
- イ もし (b)
- ウ すなわち (c)
- エ ところが (d)
- オ そして (e)
- カ では (f)

問七 ——線部⑥「わたしたちが生きていることは、時間をつむぐこと」とありますが、それを説明した次の文章の (A) (B) (C) (D)
に当てはまることを本文から十字以上十五字以内でそれぞれ探し、書きぬきなさい。()、。」「は字数に数えます。

わたしたち人間は、多種多様な生きものがつないできた38億年もの時間の上に、(A) (B) (C) (D) を積み重ねて
きている。さらに、どれだけ科学技術文明が発達した現代社会であっても、生きものであるわたしたちには
(B) (C) を積み重ねることがたいせつなのである。

問八 — 線部⑦「体の中でいのちや心が悲鳴をあげているような気がしてなりません」とありますが、それは現代がどのような社会にな

っているかと筆者が感じているからですか。その説明として適当でないものを次のア～オから二つ選び、記号で答えなさい。

ア もとは人間がこなしていた仕事を進化した機械にうばわれて、生きがいを感じにくくなっていく社会。

イ 物事を早く成しとげることがたいせつとされ、時間に追われていつも息苦しさを感じるような社会。

ウ 機械のように、世の中で役に立つのか立たないのかということにとらわれていて、生きづらさを感じる社会。

エ 本来必要なはずの時間をおろそかにすることで、時間をかけて進化してきた人間の体が、退化し始めている社会。

オ わたしたちは生きているのだということに意識を向けず、いのちや心に対する実感がうすれてきている社会。

問九 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

ペンギんの子が生まれた

川崎洋

① ペンギんの子が生まれた

父さんと母さん

それぞれのおじいさんとおばあさん

さらにはひいじいさんとひいばあさん と

ほんの二五代さかのぼっただけで

この子の両親を始めとする先祖の総計は

六七一〇万八千八百六二羽はになる

そのうちのどの一羽が欠けても

この子はこの世に

現れなかった

② ペンギんの子が生まれた

(水内喜久雄 編『一編の詩があなたを強く抱きしめる時がある』)

(1) この詩は、三つの意味のまとまりから構成されています。それぞれのまとまりのことを何と言うか、漢字で答えなさい。

(2) この詩を音読するときに、……線部①・②「ペンギんの子が生まれた」をどのように工夫して読めば良いですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

	①の読み方	②の読み方
ア	明るく大きな声で	誕生できなかつた子のことを思って、①とは異なる悲しそうな声で
イ	思いつめた声で	どの子の誕生も同じ価値があることを伝えるため、①と同じ読み方で
ウ	喜びに満ちた声で	①の表現に加え、一羽のペンギんが誕生する神秘をかみしめるように
エ	感情をおさえた声で	①とは正反対に、ペンギんの親の幸せな感情を聞き手にぶつけるように

(3) — 線部「そのうちのく現れなかった」とありますが、この部分と共通する内容が本文にも書かれています。それを本文から十五字で探し、次の文の(A)に当てはまるように書きぬきなさい。(、。」「は字数に数えます。)

ペンギんの子をはじめ、全ての生きものが生まれるには、(A) という内容。

三 次の — 線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 私のセンモンは日本文学だ。
- 2 良いホウサクを探しだそう。
- 3 町にとって大きなソンシツだ。
- 4 ケンアクな空気がただよった。
- 5 山の頂でとった写真。
- 6 辞書を一週間かけて読破した。
- 7 祖父はジュクレンしたわざの持ち主だ。
- 8 シガイチへ向かう道。
- 9 妹は喜び勇んで出かけていった。
- 10 インターネットの KouZai を考える。

問一 a エ b ア 問二 (1) イ (2) A 竹 B 葉 C 花 問三 エ

問四 ウ 問五 イ 問六 仔猫のよう な 問七 ウ

問八 普通列車で帰郷する。また、子供にしよう。子供にとす。ほ。大切。次女の悩みが深刻なところ、おどろく。な小遣い一年分のこまにし。うと。す。ほ。ど。普通列車で帰郷する。また、子供にしよう。子供にとす。ほ。ど。大切。

問九 イ エ 気持ち。

問十 乗物酔いを防ぐ。春の旅を、私共、懐かしく利用したい。普通列車の春の旅を、私共、懐かしく利用したい。酔いを防ぐ。春の旅行を、私共、懐かしく利用したい。

問十一 ウ オ

問一 A 見かけ B 細胞 C D N A D 構造

問二 生きものたちが地球の変化や苦難に負けず、長い時間、いっしょにけんめい生き続ける。歴史。、いっしょにけんめい生き続ける。長い時間。

問三 エ 問四 わたしたちにとって、存在するところ、そのものにも、ま、ずたいせつな意味がある。ということをお忘れした行動。

問五 時間をかけずに目的を達する

問六 a カ b ア c イ d エ (目的を最も効率よく行える)

問七 A 一人一人の一生と、いう時間

問七 B 毎日の暮らしの中で必要な時間

問八 ア エ 問九 (1) 連 (2) ウ

問九 (3) たくさんの偶然が、かわっている

1	センモン	2	ハウサク	3	ソンシツ	4	ケンアク
5	頂 専門	6	読破 方策	7	ジュクレン 損失	8	シガイチ 險悪
9	勇んで いただき	10	コウザイ 功罪		熟練		市街地
	いさ (んで)		どくは				